



京都大学医学部附属病院 腎臓内科 臨床研究に関する情報の公開

作成日：2013/03/22

研究課題名	京都大学病院通院中の患者における急性腎障害(AKI)の発症、およびその危険因子に関する観察研究
研究責任者	京都大学医学部附属病院 腎臓内科 教授 柳田素子
医の倫理委員会承認番号(時期)	E1693 (2013年3月22日承認)
研究期間	西暦2013年3月(倫理委員会承認後)～2年間
研究目的	<p>近年、外来での治療方法の発展は著しく、安全性も向上しています。その結果、様々な合併症を抱え、ひとむかし前なら入院して行っていた治療も、今では外来で通院しながら行えるようになりました。しかしながら、ごくまれに外来通院の治療中に思わぬ合併症を引き起こす患者さんも観察されています。特に、腎臓の機能が急に悪化する急性腎障害が問題であり、近年このような急性腎障害に対する診断基準が提唱されました。現時点では、その診断基準に基づいた急性腎障害の頻度などはまだわかっておらず、どのような患者さんが急性腎障害になりやすいのかということもまだわかっておりません。</p> <p>目的：今回は、腎臓内科・医療情報部・検査部が共同で、京都大学通院中の患者さんの急性腎障害の患者さんがどれほど存在するのか、また、どのような背景を持った患者さんが急性腎障害になりやすいのか検討し、腎障害の早期発見、早期治療の方針を明らかにすることがこの研究の目的です。</p>
研究概要	<p>該当する患者さんは2011年1月より2011年12月までの1年間に、京都大学医学部附属病院で血清クレアチニン(Cre)の検査を1回でも受けたことのある16歳以上の方です。これらの方々の年齢、性別、身長や体重、生活習慣病や慢性腎臓病の有無、悪性腫瘍の治療中かどうか、臨床検査結果、治療法を診療記録より抽出します。さらに、抽出された日から2週間、6ヶ月、1年後の血清Creが測定していれば、その値も抽出します。登録にあたっては匿名化といって個人名を消去し、代わりに番号を付与する処理を行うことで個人が同定できないようにして統計解析を行います。その結果は、腎臓病に関する学会や医学雑誌に公表されることがあります。研究に組み入れられることを希望されない方は担当医や下記の問い合わせ先にお知らせください。その場合、データ収集や統計処理はいたしません。</p>



倫理面での配慮 個人情報保護の方法など	この研究はヘルシンキ宣言（世界医師会）、疫学研究に関する倫理指針（文部科学省）、臨床研究に関する倫理指針（厚生労働省）を守って行います。ご提供いただいた資料は、研究用のコード番号で管理し、ご提供いただいた方の個人情報が研究利用の段階で漏えいすることがないように管理します。
結果の公表について	この研究によって成果が得られた場合は、国内外の学術集会・学術雑誌などで公表します。その際にも、ご提供いただいた方の個人情報が明らかになることはありません。
研究組織・共同研究機関	この研究は、京都大学医学部附属病院腎臓内科が主体となって行いますが、他の研究機関との共同研究も予定しています。
研究の問い合わせ先	京都大学医学部附属病院 腎臓内科 TEL 075-751-3111 担当医師：腎臓内科学 松原 雄
研究者からの一言	外来通院中の急性腎障害の早期発見につながるような研究成果が一日でも早く皆様の元に届けられるよう、研究組織一同、日々努力いたします。臨床研究へのご協力を是非ともお願いいたします。
関連する研究番号と課題名	なし